

都市再生整備計画 事後評価シート  
豊後高田城台地区

平成30年3月

大分県豊後高田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	豊後高田市	地区名	豊後高田城台地区			面積	27.2 ha
交付期間	平成24年度～28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	974.1百万円	国費率	0.4		
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ○道路(城台団地内道路(仮称)) ○道路(市道志手町新屋敷線) ○道路(市道算所中学校線) ○道路(城台団地内公園(仮称)) ○下水道 ○高質空間形成施設(城台団地内道路美装化) ○高次都市施設(地域交流センター) ○公営住宅等整備(城台団地)						
		提案事業	○地域創造支援事業(定住促進情報発信事業) ○地域創造支援事業(定住促進助成事業)						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	○事業活用調査(定住促進計画策定)		緊急雇用創出事業(他省庁所管)により事業を実施したため削除(第3回変更)	他事業で実施しており、事業効果には影響がないことから数値目標は据え置く			
	新たに追加した事業	基幹事業	○道路(市道入津原中之島線)		重点的に事業を実施する必要があることから、基幹事業に移行して事業を実施するため追加(第3回変更)	関連事業から基幹事業への変更であり、事業効果には影響がないことから数値目標は据え置く			
			○道路(市道坂ノ上線)		重点的に事業を実施する必要があることから、基幹事業に移行して事業を実施するため追加(第3回変更)	関連事業から基幹事業への変更であり、事業効果には影響がないことから数値目標は据え置く			
			○公園(自然体験公園(仮称))		子ども等が自然を体験できる公園を整備し、団地内の魅力を高め、転入人口の増加を促すため追加(第1回変更)	事業の追加及び事業費(整備内容)の変更は、人口に係る2指標に関係するが、他事業の影響も大きいことから数値目標は据え置く			
		提案事業	○事業活用調査(生活環境満足度調査)		提案事業に移行して事業を実施するため追加(第3回変更)	効果促進事業から提案事業への変更であり、事業効果には影響がないことから数値目標は据え置く			
			○まちづくり活動推進事業(地域コミュニティ育成事業)		提案事業に移行して事業を実施するため追加(第3回変更)	効果促進事業から提案事業への変更であり、事業効果には影響がないことから数値目標は据え置く			
	交付期間の変更	当初	平成24年度～28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					
変更	なし								

	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	計画区域内人口	人	522	H24	555	H28		717	○	あり なし	中心市街地の徒歩圏にある城台地区において、都市基盤が整い良好な居住環境を備えた住宅団地が整備され、購入・入居しやすい宅地や賃貸住宅が供給され、あわせて移住・定住支援策を背景に積極的な情報発信により、移住・定住需要を顕在化させ、目標値を大きく上回った。	— (確定値)	
	指標2	50歳未満の計画区域内人口	人	224	H24	236	H28		432	○	あり なし	城台地区において、良好な居住環境を備えた住宅団地が整備され、若い世代も購入しやすい価格・方法での宅地供給や子育てニーズにあった賃貸住宅整備により、移住・定住支援策や子育て支援策とあいまって、若い世代の需要を取り込むことができ、目標値を大きく上回った。	— (確定値)	
	指標3	地区内における移動時の安全性・快適性についての満足度 (満足度普通以上の割合)	%	26.2	H24	50.0	H28		74.7	○	あり なし	高田中学校周辺の道路の一部新設を含む改良による拡幅及び歩行空間の確保により移動時の安全性・快適性が向上した結果、地区住民の安全性・快適性についての満足度は向上し、目標値を大きく上回った。	— (確定値)	
	指標4	転入世帯の自治会加入率	%	—	—	80.0	H28		100.0	○	あり なし	コミュニティの拠点となる地域交流センターの整備や地域住民の交流の場となる公園の整備に加え、コミュニティ活動促進に向けた支援策の実施により、転入世帯のコミュニティ意識の向上が図られた結果、転入世帯の城台自治会加入率は目標値を大きく上回った。	— (確定値)	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数 値	モニタリング	評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標1	なし												
4)定性的な効果発現状況	<p>○子供たちが増え、登校時などに地域の人々とあいさつを交わすなど、地区に活気が出てきたとの声が寄せられている。</p> <p>○地域交流センターでは、地域住民の交流イベントや子どもたちに対する絵本読み聞かせプログラムなどが行われ、新規住民同士が交流を深める場となっている。また、公園では、地域の夏祭りが開かれるなど、地域住民の交流の場としても活用されている。</p>													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			
	住民参加プロセス	城台子育て支援環境ワークショップ					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	子育て支援環境の向上に向けて、今後もワークショップなどにより地域住民と協働・連携して取組みを進めていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—			

## 様式2-2 地区の概要

### 豊後高田城台地区(大分県豊後高田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 宅地及び集合賃貸住宅の供給並びに安全、快適で魅力ある住環境の形成により、「住んでみたい、夢の持てるまちづくり」を促進し、定住人口の増大と地域の活性化を図る	計画区域内人口	単位:人/年	522 H24	717 H28
目標1 若年層に魅力ある優良な宅地、住宅ストックの形成	50歳未満の計画区域内人口	単位:人/年	224 H24	432 H28
目標2 安全・快適な住環境、生活環境づくりの推進	地区内における移動時の安全性・快適性についての満足度	単位:%	26.2 H24	74.7 H29
目標3 人と人が触れ合う地域コミュニティづくりの推進	転入世帯の自治会加入率	単位:%	—	100.0 H28



市道志手町新屋敷線改修事業



市道入津原中之島線改修事業



市道坂ノ上線改修事業



高質空間形成施設①

○基幹事業  
市道志手町新屋敷線改修事業

○関連事業  
道路 入津原中之島線

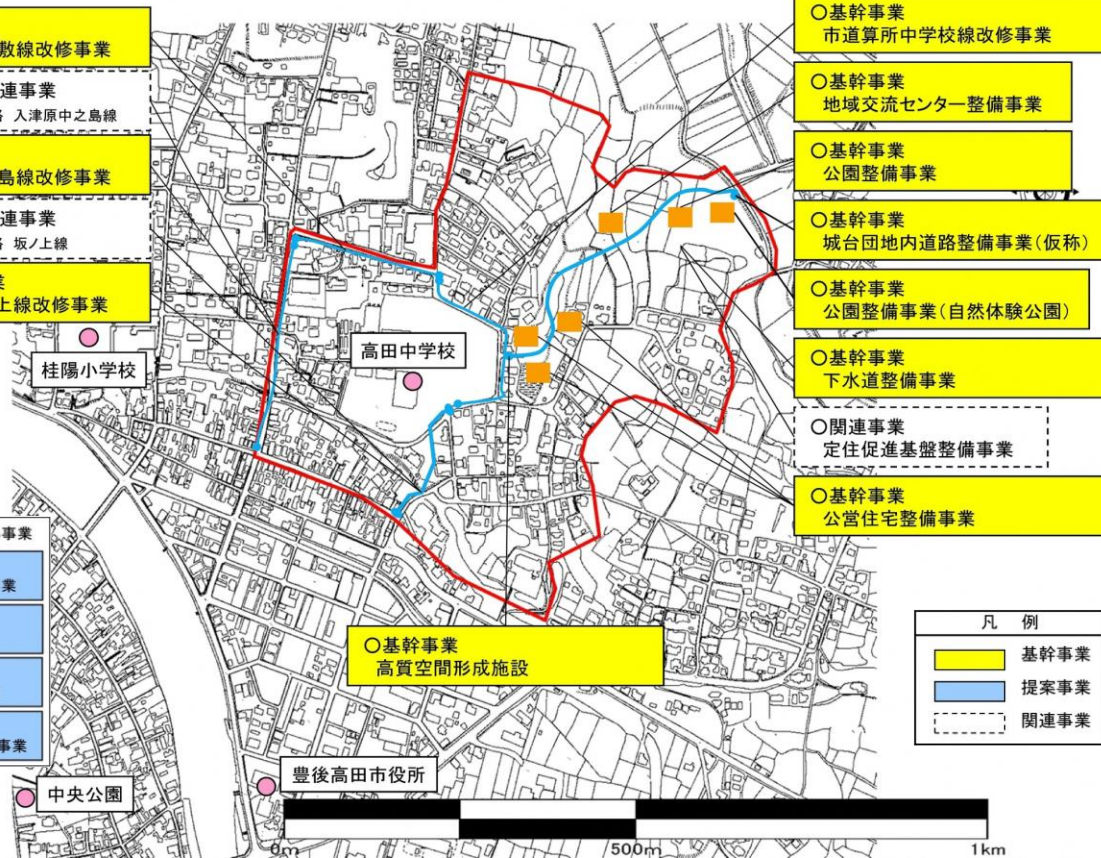
○基幹事業  
市道入津原中之島線改修事業

○関連事業  
道路 坂ノ上線

○基幹事業  
市道坂ノ上線改修事業

計画区域全体に関する事業

- 提案事業 定住促進情報発信事業
- 提案事業 定住促進助成事業
- 提案事業 生活環境満足度調査
- 提案事業 地域コミュニティ育成事業



○基幹事業  
高質空間形成施設

○基幹事業  
市道算所中学校線改修事業

○基幹事業  
地域交流センター整備事業

○基幹事業  
公園整備事業

○基幹事業  
城台団地内道路整備事業(仮称)

○基幹事業  
公園整備事業(自然体験公園)

○基幹事業  
下水道整備事業

○関連事業  
定住促進基盤整備事業

○基幹事業  
公営住宅整備事業

凡例

- 基幹事業 (Yellow box)
- 提案事業 (Blue box)
- 関連事業 (Dashed box)



市道算所中学校線改修事業



地域交流センター整備事業



公園整備事業



高質空間形成施設②



公営住宅整備事業



公園整備事業(自然体験公園)



城台団地内道路整備事業(仮称)

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校等の教育施設や子育て支援施設が近隣にあり、本市中心市街地へも徒歩圏にある好立地の城台地区において、都市基盤が整い良好な居住環境を備えた住宅団地が整備され、計画策定時の見込みを上回るペースで宅地分譲や賃貸住宅への入居が進んだ。</li> <li>○若い世代も購入しやすい価格や方法で宅地が供給され、また、子育てニーズにあった賃貸住宅が整備されたことにより、本市の充実した移住・定住支援策や子育て支援策とあいまって、若い世代を中心に入居・定住が進んだ。</li> <li>○地区外へのアクセス道路及び地区内の道路と地区外へのアクセス道路とを結ぶ道路の一部新設を含む改良等による拡幅及び歩行空間の確保により移動時の安全性・快適性が向上した。一方で、団地開発による自動車等の通行量の増加や計画区域内の道路整備により自動車や自転車等のスピードが出しやすくなったことから、これに対応した交通安全の取り組み強化が必要になった。</li> <li>○コミュニティの拠点となる地域交流センターの整備や地域住民の交流の場となる公園の整備に加え、コミュニティ活動促進に向けた支援策の実施により、コミュニティづくりの環境が整備された。</li> </ul>
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画区域内は、小中学校などの教育施設、子育て支援施設、図書館、公民館がある文教地域であり、市役所などの官公庁、中心市街地にも徒歩圏にある居住に適した地域であったが、団地開発により更にその地域が拡大し区域全体の魅力も向上した。そのため、定住団地以外でも移住定住人口の増加が期待されるので、今後も継続して人口増加策に取り組む。</li> <li>○快適な道路環境になった一方、団地開発による自動車等の通行量の増加や計画区域内の道路整備による自動車や自転車のスピードにより交通事故が起こらないように交通安全の取り組みを行う。</li> <li>○新しく整備された住宅団地において組織した自治会は、計画区域全体が加入する自治会組織にも参画し交流しているが、地域内のコミュニティが更に深まるように支援する。</li> </ul>